

天師一代記

後篇

丙子春歌

東西庵南北作

勝川春扇画

貴重書

泉市梓行

天師一代記

特別
196

2
4



大

十六

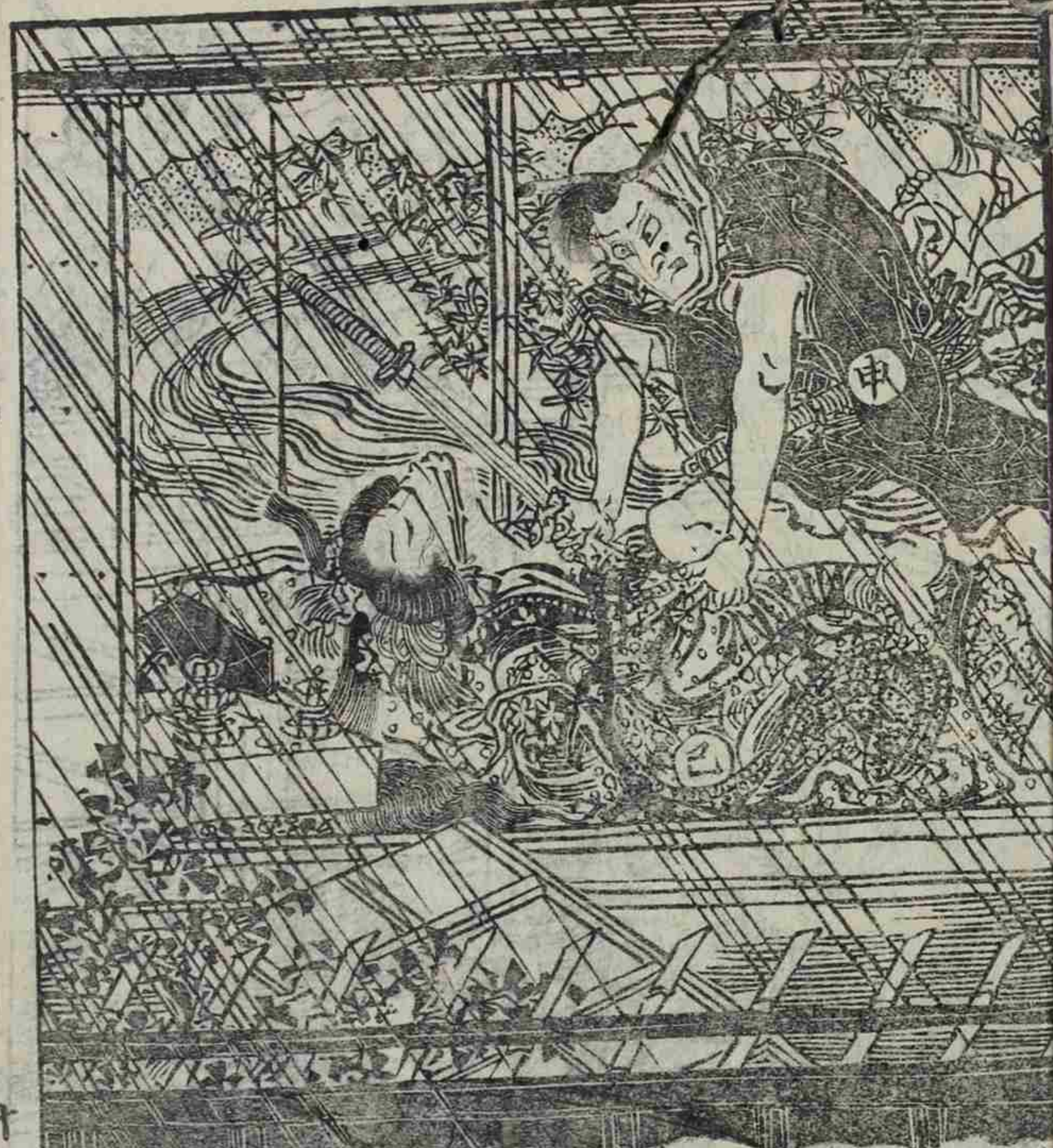
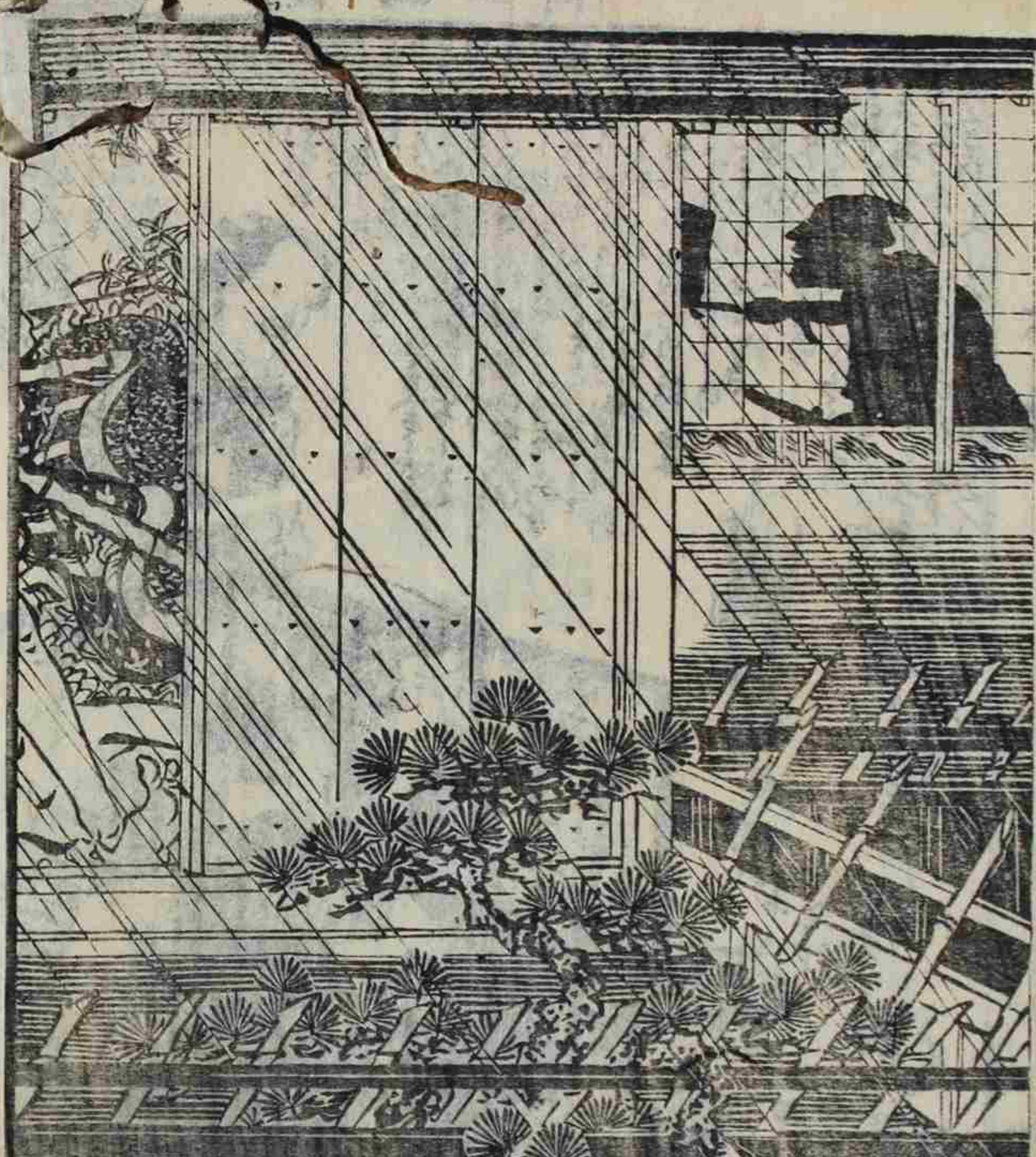


40. 8. 26

7306531

東 西 虎 南 北 作
川 長 寺 寺
古 城 寺 寺

女 糸 堂 抄

[illegible][illegible]

古

十八



さるやぐふ庄司がいあそふものゝ死の
死人ひちいのまぢうぢうハスハ人ありし
かきんこののまじさなをうじとててこわ
あつたぬしのせんはもほびーくさそふヌ
ゆき々であてふあちのあつたをいづ
もちでうらざりしを中にもおしじが

[illegible]

ちんちんや
 まるらんこの
 つらりーを
 ねえいさうい
 ちんちんや
 まるらんこの
 つらりーを
 ねえいさうい
 ちんちんや
 まるらんこの
 つらりーを
 ねえいさうい

[illegible]

一、かうとあるが
 こゝろは
 一、かうとあるが
 こゝろは
 一、かうとあるが
 こゝろは

多きなりとてきなり

inspire
strength
to

庚申の疾ふたせうと
 ちやうたりとれぬぞとある

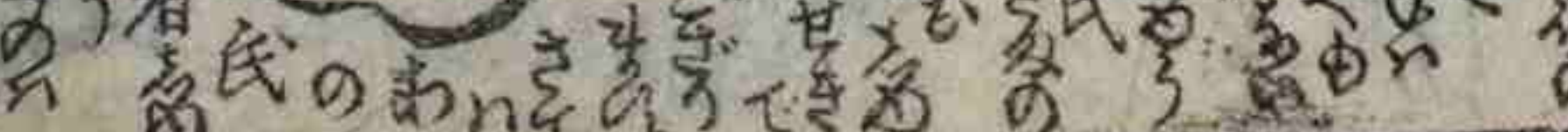
つきのあひせきさるあひせき
ちんぼのうら子あてありや
このやぐのいづづきあひ
やうさあひせきのあひ
ありあがらうら子あ
んやあてうら
子あひせきあて

幸吾乃成が口より
 うそありき金あり
 一人のむさし小万をうむと

平吾がはなうにせといふと
平吾がらうに死せよとさうてな
せうとて人のふかぬぞうあんと
そのやうにでんぐをうけひめづり
が
あうあうをききそよりあうあう
やうのトゆうあうわがあう
あうのあんあうあうさくさう
かうさうあうあうあうあう
いどうなるあうさくさうさう

せんくへ
 るんといあふ
 せんくあふて
 むきん女がうのえふ
 りてあーあまの
 へきあふわつて
 あふのうの子とあふを
 たらひさうさふへー

庚申の夜の
あまねと
あさひに
まぐゆ
あう
わ氏
まゐの
ち
そき
ごう
まて
さと
氏の
者
ま
あう
その
あひで
あう
オイ

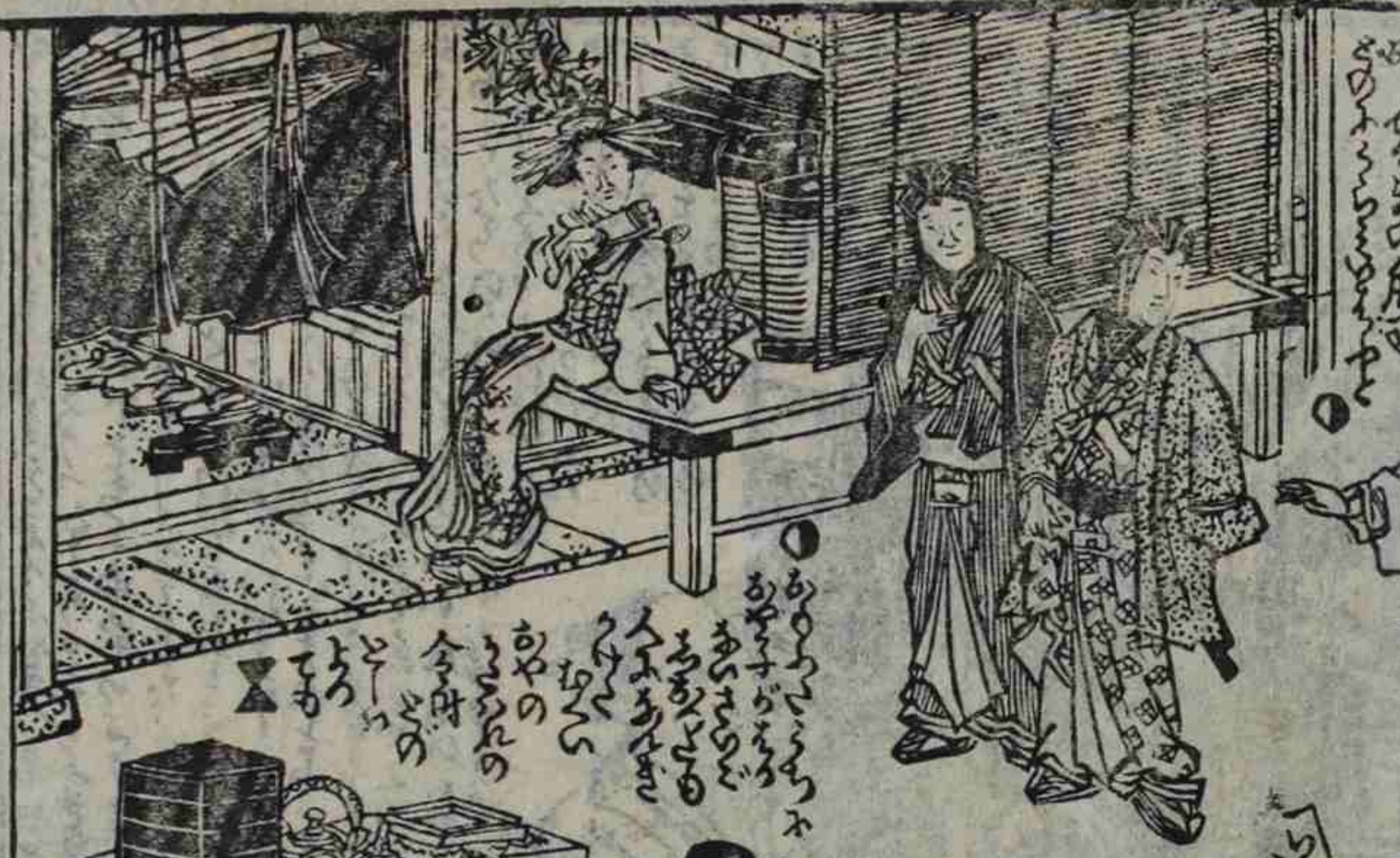
A black and white illustration showing a figure lying face down on the ground. A long object, likely a sword or staff, lies horizontally above the figure's head. The scene is set outdoors with some foliage visible in the background.

十九

[illegible]

[illegible]

望

[illegible]

さきどんがひであうんえんて
からあれあふあうらうけあが
あやうらうらあやあやのひき
あやうらうらあやあやのひき
あやうらうらあやあやのひき



まゝのつぎにイロハ
クサキチヂノミ
フスエウヤウ
老人のふぢふぢ
トてのもちけぬ
ミナのとがよ
なちとろり
つふぢ
それゆをあらわめ
じまれのさなド
あれちぢぢの
庭司お
中々の
あんそ
つうけ
られ
たやで
ひょうりの
おきめを
あつめの
ふぢ人
あつめて
宮村の▲



とてあひかたあるはさくま
あふあんとぞうでうり



あつてのやうな
るきやうな西の
れおへんの

あつてのやうな
るきやうな西の
れおへんの

あつてのやうな
るきやうな西の
れおへんの



あつてのやうな
るきやうな西の
れおへんの

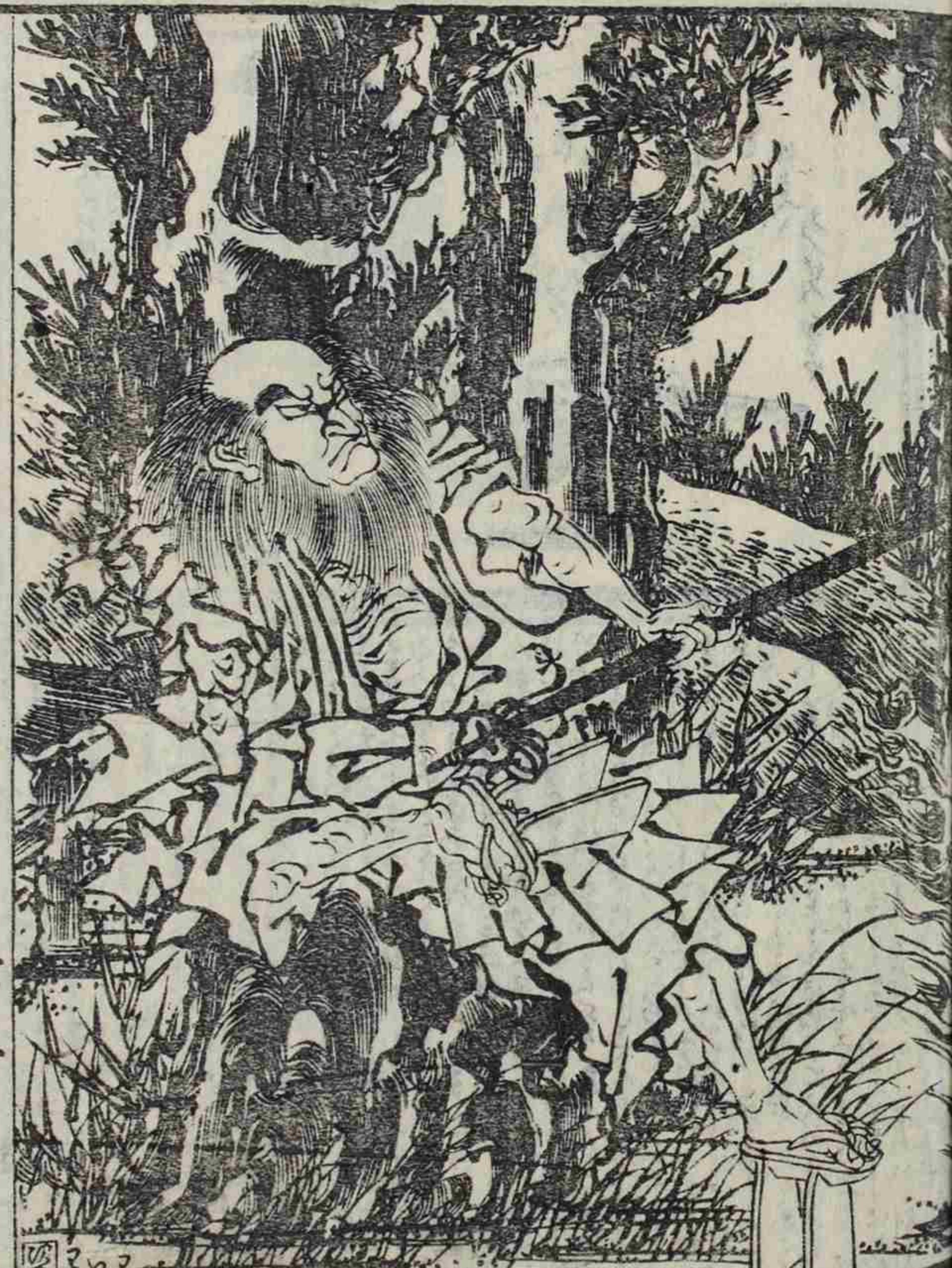
あつてのやうな
るきやうな西の
れおへんの

さそふなりやみ
うづめど

素
わんど
をう
まける



いふに



[illegible]

10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

[illegible]

[illegible]

三十七

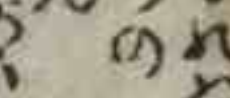


うたの
うたの
うたの



あづかるてやうも
るくろくはさきやわら
うちうけぬのであらまど
もちうけあをしくとど
むるあるもちうけ
あんをさんちであつる
老信ちんれいでりやうヤヨまで
あんちんちめまんぞい
ほくしでうけまりれう



 **△** 本舟なう
あうそあつてい
くちめあがらの
うごをさふん
だんしと市ん
うまひ
あふひれうが
あやの本舟
入るあう
又その子
本舟
月なう
丸が

四 うろ

卷之四



2015.10.10
 2015.10.10
 2015.10.10



三十九

子

かきつばたのうた

めづらんを
さそ



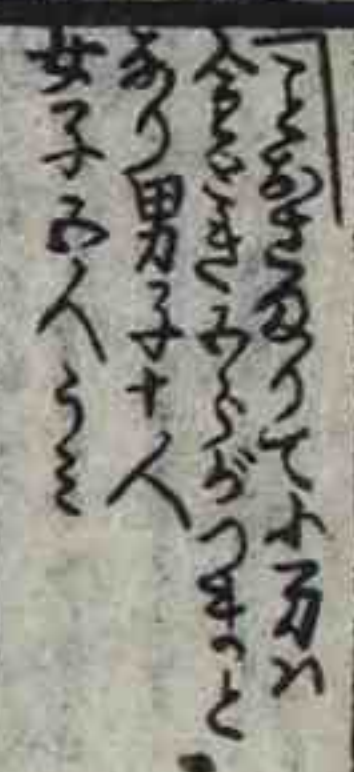
人々をさへ
さぬぐおきまを
あてりまぜんのるわ
おもひくともてんの
おもれあてり

[illegible]

曉池由來
 西家昔語
 度想
 古今
 昔風俗
 今繪組
 二人思女
 二人牛雅
 妾の関取
 三月をせん
 榎房
 浅中孤館
 葛西五漱

[illegible]

右目録より
新板より
追々出板
賣出する
ものあり
あつじや
求むるに
求むるに
上
く
速に判
多
江戸は神明前
三島町
地本問屋
耳泉堂
和泉屋市兵衛
壽梓



馬季口上
極上製奇應丸

婦人血の道の系 神女湯外にはぎ虫の
くまを 功能ハ世の人のする所用ハあり
知る 板元和泉屋市兵衛方と云ふ

点の水

かゝるおまじの能書ふやう

京傳見世多為喜次中

讀書丸 小兒無病丸
奇心丸

ぐさきんのむぎぎ

勝川春扇並

文
圖書
年度

文
L
3